

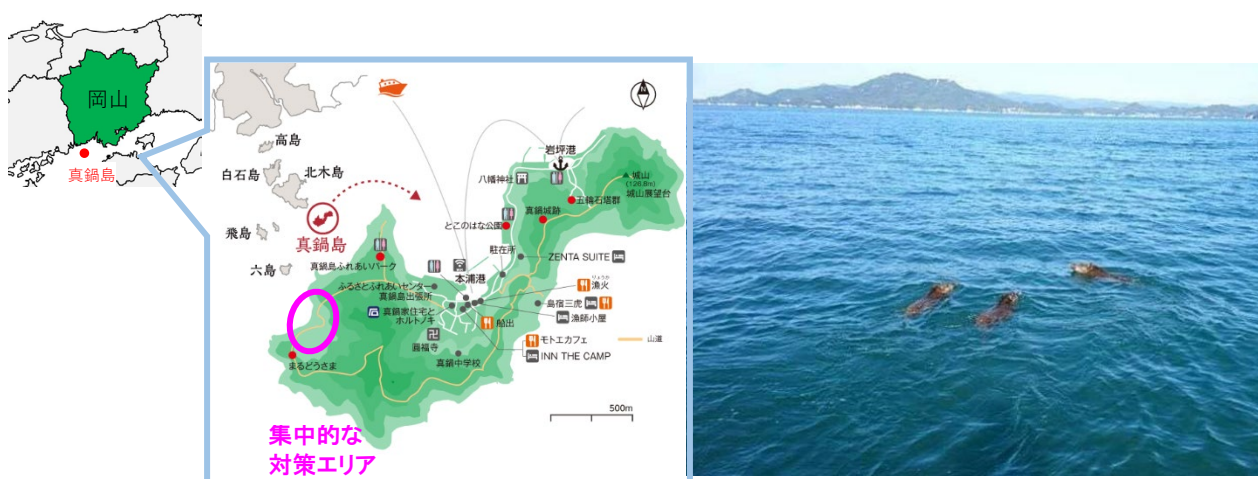
令和5年度 スマートアイランド推進実証調査が始動 ～電気興業が開発した AI エンジンを活用し、離島の課題を解決～

電気興業株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：近藤忠登史）は、国土交通省が実施する、離島地域が抱える課題解決のために ICT をはじめとする新たな技術等の離島地域への実装を図る「スマートアイランド」の実現を推進する事業に参画いたしました。

本調査は、当社、岡山県笠岡市、株式会社イト日本技術開発、株式会社システムズナカシマ及び真鍋島のいしし駆除グループより構成されるコンソーシアムにて実施されます。本コンソーシアムにて提案された「岡山県笠岡市真鍋島におけるイノシシ駆除」事業が採択され、9月19日の住民説明会の後に実証事業が始動いたしました。当社は、[昨年の新潟県粟島浦村で実施されたスマートアイランド推進実証](#)に続き2年連続の参画となります。

【真鍋島で本実証調査が行われる背景】

真鍋島は、瀬戸内海中部にある笠岡諸島に属し、本州から11km、四国から9kmに浮かぶ周囲7.5kmの小さな離島です。10年ほど前は1頭もいなかったイノシシが、本土から海を泳いで渡って島で繁殖し、農作物等の被害が急増するだけでなく、住宅地にも出没することで島民の生活を脅かしております。本コンソーシアムでは、ICT等新たな技術を駆使して「イノシシが一番住みにくい島」の実現を目指しています。



海を渡るイノシシ（コンソーシアム関係者提供）

【概要】

離島に生息するイノシシの生態を把握するため、株式会社イーラボ・エクスペリエンスの屋外型乾電池式 IoT 対応定点カメラ^{※1}を島内12か所に設置し、カメラから携帯電話網で伝送された映像を自社開発した AI エンジン^{※2}で解析します。

なお、本コンソーシアムではイノシシ AI カメラの他にも鳥獣害クラウドシステム、ハンティングドローン^{※3}による「巻き狩り^{※4}」の実証も予定されています。

【今後について】

本実証調査で得られた知見を活かし、離島での鳥獣害対策の先進的モデルとして同様の課題を抱える地域への展開を図ってまいります。



屋外型乾電池式 IoT 対応定点カメラ



撮影されたイノシシ

- ※ 1 屋外カメラの長期運用には電源の確保が必要となりますが、屋外型乾電池カメラは市販の単一電池を 24 本使用して電源を確保することで約 1 年間の長期連続監視が可能となります。
- ※ 2 12 台全ての IoT 対応定点カメラから得られた映像を確認することは、慢性的な労働力不足の離島には負担が大きい
ため、得られた映像から AI 判定によりイノシシをカウントする仕組みを開発します。
- ※ 3 イノシシが嫌う音（猟犬が威嚇する鳴き声）を発する装置を搭載したドローンでイノシシが潜む森林上空を飛行させ、
イノシシを駆除場所まで誘導します。今回の事業では地域の方もドローンの操作訓練を行い、ハンティングドローンを地
域に実装する試みが行われます。
- ※ 4 イノシシ等の獲物が生息する場所を多人数で囲い、徐々に範囲を狭めながら獲物を追いつめて射止める狩猟方法で
す。深刻な労働力不足が課題の離島で今回はドローンによりイノシシを追い詰める効果の検証が行われます。

【お問い合わせ先】 電気興業株式会社 総務部 I R・広報課

Tel 03-3216-1682
Mail kouhou@denkikogyo.co.jp
Website <https://denkikogyo.co.jp/>